

特別講座「宗像学」の報告

北濱 幹士*・宮川 幹平*

(受付 2016 年 7 月 1 日)

(受理 2016 年 9 月 28 日)

Report on Special Lecture “Munakata”

by
Kanji KITAHAMA*, Kampei MIYAKAWA*

Abstract

This report discusses one educational system, a focus on the regional study, such as *Munakata-study*. Basically, this special lecture is related with “*GENDAIBUNMEIRON*”. After the lecture on Munakata and World Heritage sites, students visited *Munakata-shrine, the Munakata Study Exchange Center, and Taguma-Ishihata Yayoi settlement site Historical Park* to encourage their additional study.

The purpose of this special lecture is to give not only a conceptual and abstract understanding about Munakata and its nearby World Heritage sites, but to also have students feel the reality of problems that relate to their own. Although it is difficult to measure how much the students understood about the Munakata region, the goal is that students will remember Munakata and visit Munakata with friends or family talking about it as their second hometown (where they spent their college years) in near the future.

Keywords : World Heritage Site, Regional Study, Educational System

1. はじめに

2016 年 7 月 9 日の土曜日、東海大学福岡短期大学（以下、本学）の学生を対象に、特別講座「宗像学」を開催した。本講座参加者は、学生 8 名（男子学生 4 名、女子学生 4 名）、及び引率教員 2 名（筆者 2 名）である。本講座は、本学における 1 年生向け必修科目である「現代文明論 I」において、「宗像と世界遺産」をテーマとした講義（同年 7 月 7 日）とディスカッション（同年 7 月 14 日・21 日）を実施することにあわせ、学生らが宗像とその世界遺産登録に関しての知識をさらに深めると共に、実在の場所を訪問する経験を得る事に主眼を置いて開催した準正課活動である。

『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の構成資産は、宗像市と隣接する福津市に存在しており、両市及び福岡県は、世界遺産登録に向けて活動を行っている*1。上記した世界遺産登録を踏まえ、今回の「宗像学」の訪問場所として、宗像大社（辺津宮本殿・拝殿、高宮祭場、第二宮、第三宮）、海の道 むなかた館、及び宗像市田熊石畑遺跡歴史公園（愛称：いせきんぐ宗像）とした。

本報告は、地域を学びの拠点とし、地域に根差し、密着し、共に学生を育て、郷土愛を醸成する高等教育機関

の取り組み事例の 1 つとしてこの報告が役に立てばと思う。

2. 特別講座「宗像学」の目的と概要

大学は、自主的に学ぶ習慣を身に付け、専門領域を深く教授研究する教育機関である。しかし、専門的な学びだけでなく、多種多様な関連領域の概念を幅広く享受することも欠かせない。例えば、大学周辺でのボランティア活動への参加、大学周辺の企業・教育機関等との連携事業、或いは小中学校への訪問など、幅広い活動が列挙できる。つまり、学生が大学の存在、またその地域を 2 年或いは 4 年通っただけの場所ではなく、「第 2 の故郷」として捉えられるようにならないだろうか。

第 2 の故郷として地域を捉えるには、学生時代の思い出（行きつけの食堂、アルバイトをした店、集合場所だった友人の部屋など）だけでなく、その地域についても理解もしておくべきではないだろうか。

近年、「●●学」と言った地域を題材とした取り組みが、各地域独自の趣向を凝らした方法で実践されている。九州内を例に挙げると、2016 年に別府大学が食べる・見る・聞く・嗅ぐ・触るの五感を投入した総合学としての「九州学」をスタートさせ、シンポジウムや公開授業を

行っている^{1,2)}。糸島地域広域連携プロジェクト推進会議は、「いとしま学」^{*2}のテキストを編纂し、平成28年度に市内小学校5年生(約900名)、中学校1年生(約900名)に配布した³⁾。また、長崎女子短期大学は「長崎食育学を活かした食文化伝承と情報発信」が、平成22年度大学教育・学生支援推進事業として採択されている⁴⁾。

これらの地域学について山形県生涯学習センターは、地域学とは純学問的なものではなく生涯学習の1つ、つまり、多様かつ多彩な総合学習であり、地域のある事象を学ぶことによって、個々人の何かを確立させることに可能性を見出すものと定義している⁵⁾。

先述した通り、本学が所在する宗像は世界遺産登録に向けて奔走している。しかし、地域住民のどの程度が、或いは本学の学生のどれだけが「宗像」について理解しているのであろうか。

簡単に宗像について紹介をする。「ムナカタ」は沼沢地に接する集落という意味である。漢字表記では胸肩・宗形・牟那加多・宗像と書かれているが、中世以降は現在も使用されている宗像が使用されている。古代よりこの宗像一円の海岸地方に勢力を持っていた豪族が宗像一族であり、下記に示す宗像三女神(宗像三神とも表記する)を氏神として祭政一致のまつりごとを司ってきた歴史がある⁶⁾。

その宗像三神^{*3}が鎮座している田島～大島～沖ノ島、この延長線上には対馬、そして新羅(現在の大韓民国)がある。この海上ルートは「北海道中」と呼ばれ、宗像の地は、古来より中国大陸や朝鮮半島との貿易の窓口としての役割を果たしていた⁷⁾。また、日本書紀では「歴代天皇のまつりごとを助け、丁重な祭祀をうけられよ」との神勅、そして三女神が宗像の地に降臨し、祀られている事が記載されている^{*4 8)}。これらの歴史を踏まえると、宗像に位置する本学が「宗像学」を開催する重要性が理解できるであろう。

3. 特別講座「宗像学」の設計

〈3・1〉 実施方針

本講座実施の第一の目的は、前述のとおり、学生らが自分たちの生活する地域のひとつである宗像に関する知識と経験を得ることにある。この目的達成のため、本講座の実施方針として、参加学生らに対し、各施設を訪問して、宗像と世界遺産に関する知識を遺跡や資料から得るだけに留まらず、各施設の職員やボランティアとフェイスツーフェイスで対話を行わせることを促すこととした。これは、中教審の質的転換答申⁹⁾でのアクティブラーニングの説明「学習者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」こととその趣旨を等しくしている。即ち、一方向的な講義ではなく、また、教師や友人でもない相手との直接対話の経験を通じて、今回のテーマである「宗像と世界遺産」に関し、学術的な

意義や観光客への対応、地域住民の生活への影響、その他、世界遺産登録推進によるメリットと課題について、抽象的・概念的な理解に留まらない現実性を肌で感じさせ、自らに関わりある問題として考える姿勢を涵養することを企図した。

〈3・2〉 講座設計

①講座の位置付けと参加学生の募集

本講座は正課「現代文明論Ⅰ」の内容と関連はするが、位置付けとしては正課外活動であり、学生の参加は任意である。なお、「現代文明論Ⅰ」では、定期的に開催される補習のほか、各講義への振り返り活動等、授業内容に関連する授業外活動を広く成績評価対象としており、本講座への参加もその一環として評価対象とする旨を学生に周知した。

参加者の募集は、講座実施の約3週間前から講座実施前日まで(6月16日～7月8日)、「現代文明論Ⅰ」受講者(73名)を対象として、その授業前後の掲示及び学生ポータルサイトへの掲示によって行った。結果、本講座に関する質問・相談をした学生は10名、参加学生は最終的に8名となった。

②講座の構成と実施

本講座の行程を表1に示す。まず、講義として、本講座の趣旨と実施方針のほか、正課「現代文明論Ⅰ」での講義(7月7日)内容を振り返りながら、本講座に参加するにあたって必要となる予備知識について解説を行った。続いて、テーマである「宗像と世界遺産」に関わりの深い三施設「宗像大社」「海の道むなかた館」「いせきんぐ宗像」の視察を行った。これら各施設の特色については後述する。特に「海の道むなかた館」「いせきんぐ宗像」においては、常駐する施設職員・ボランティアが非常に積極的であることに助けられ、参加学生全員がそれぞれ個別に数十分以上の対話を行っていた。最後の振り返り及びまとめでは、特に今後実施される正課「現代文明論Ⅰ」でのディスカッション活動(7月14日・21日:後述)において、今回の活動経験を活かすよう助言を行った。

表1 本講座の行程

時間	概要
9:00～	短大集合
9:05～9:25	講義～宗像学
9:30～	移動
10:00～11:00	「宗像大社」視察
11:00～	移動
11:10～12:00	「海の道むなかた館」視察
12:00～	移動
12:15～12:30	「いせきんぐ宗像」視察
12:30～	移動
12:40～12:50	振り返り・まとめ
12:50	解散

なお、各移動には短大所有の学用車（2 台）を用い、運転は引率教員が担当した。

4. 訪問スポット

〈4・1〉 宗像大社（本殿・拝殿、高宮祭場、第2宮、第3宮）

宗像大社には、天照大神の御子神である三女神が祀られている。三女神は別々の宮に祀られており、三宮を総称して「宗像大社」と呼ばれている（表2参照）。宗像三女神は、海上に展開して祀られている。田島の辺津宮には市杵島姫神、大島の中津宮には湍津姫神、そして沖ノ島の沖津宮に田心姫神が鎮座している¹⁰⁾。

表2 宗像大社と三女神

宗 像 大 社	長女	たごりひめのかみ 田心姫神	沖津宮 (沖ノ島)
	次女	たぎつひめのかみ 湍津姫神	中津宮 (大島)
	三女	いちきしまひめのかみ 市杵島姫神	辺津宮 (宗像本土・田島)

高宮祭場は、辺津宮本殿裏の小高い丘の山頂にあり、宗像三女神の降臨地として伝えられている神聖な場所である。本祭場は古代のまま保存されており、祈りの原形を見る事ができる神秘的な場所である¹¹⁾。

第2宮と第3宮は、昭和48年の伊勢神宮第60回式年遷宮の際、下賜された別宮の古殿を移築再建されたものである。第2宮は沖津宮の田心姫神、第3宮には中津宮の湍津姫神が祀られている¹²⁾。

〈4・2〉 海の道 むなかた館

宗像大社に隣接する「海の道 むなかた館（宗像市郷土文化学習交流館、以下、むなかた館）」は、宗像市によって運営される歴史拠点施設である。その名は、前述した古代航路「海北道中」に由来し、宗像の歴史・自然・文化・産業等に関連する遺産や資料の展示のほか、館長講座や体験学習企画（土笛づくり、古銭鑄造、火おこし等）を実施するなど、地域における生涯学習の一拠点として、積極的な活動を行っている。設備としては、常設・特別展示室のほか、地域の特産品の紹介・販売を兼ねた休憩スペースや講義用・体験学習用の教室、図書館などがある。特に図書館では宗像の歴史・自然・文化・産業等に関する数多くの書籍・資料を所蔵している。

また、むなかた館は、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録に向けた活動においても重要な役割を果たしている。館内には遺産群と世界遺産登録活動を紹介するパネル展示があり、沖ノ島の3D映像資料、職員やボランティアによる解説、多言語に対応した所蔵文化財の解説アプリ「むなばく」など、遺産群の内容やその価値について、来館者の理解を助けるための工

夫が随所になされている。即ち、広域に所在する上に一部は訪問すら困難な関連遺産群について、ワンストップで総合的に学習するには最適な施設と言える。なお、本講座で訪問した際は、ユネスコに提出された世界遺産登録の推薦書も展示されていた（写真1参照）¹³⁾。



写真1 世界遺産登録の推薦書（photo by Miyakawa）

〈4・3〉 いせきんぐ宗像

宗像市田熊石畑遺跡歴史公園、愛称「いせきんぐ宗像」は、宗像市教育委員会による発掘調査（2008年）、その2年後の国史跡の指定（2010年）を経て、2015年にオープンした宗像人のルーツを見聞きできる公園である^{*5)}。公園内には、環濠と貯蔵穴、菜花園（古来からの植物の栽培）、掘建柱建物、堅穴住居、区画墓、粘土採掘抗跡等を見ることができる（写真2、3参照）^{14,15)}。



写真2 いせきんぐ宗像（photo by Kitahama）



写真3 貯蔵穴（photo by Kitahama）

5. 特別講座「宗像学」を実施して

(5・1) 教育効果に関する期待と課題

本講座の大きな特徴と可能性は、正課授業「現代文明論Ⅰ」との連携にあると考える。「現代文明論Ⅰ」では、筆者が授業担当として、従来からアクティブラーニング型授業を展開しており、その取り組みの一つとして、講義内容に関連するグループ・ディスカッションを定期的に行っている。筆者らは、かつて本学が取り組んできた地域活性化活動において、学外活動を単発のイベントとせず、継続的に取り組む仕掛けの重要性を指摘¹⁶⁾したが、本講座の活動後に行われた「現代文明論Ⅰ」でのグループ・ディスカッションは、まさに本講座の参加によって得た知見を活かす場として機能することが期待できる(図1①)。また、溝上¹⁷⁾が指摘する通り、アクティブラーニング型授業の効果を高めるには、学生の授業外活動を促進していく必要があるが、現実として、本学学生の授業外学習の状況は芳しくない。例えば、2016年度「現代文明論Ⅰ」の授業評価アンケート(無記名)によると59.4%の学生が全く授業外学習(予習・復習)をしていないと回答している。このことも影響してか、グループ・ディスカッションを組み込んでも、いま一步、教員が仕掛けた表層的な活動に学生が文字通り従事することに留まり、学生による能動的な議論が深まらないことが課題となっていた。この課題に対して、本講座のように、正課授業で取り扱ったテーマに直接関連する準正課活動を実施することは、これが真に学生の主体的意思によるものかどうかは議論の対象としても、授業外活動の促進とチェックを実現する一手段となりうると考えている。また、今回、本講座の参加者は、正課「現代文明論Ⅰ」の受講者の11%に留まるが、それら受講生がその後のグループ・ディスカッションで果たすべき役割も無視できない。専門家による講義内容と学生らの考える現実とを結びつけるとともに、学生全体に対して、本講座のような準正課活動のほか、授業外での活動そのものに関するポジティブな意識転換に繋がるのではないかと期待しているのである(図1②)。

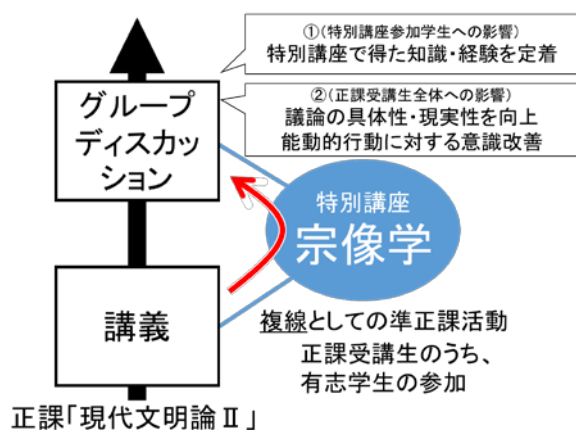


図1 本講座の発展型により期待される教育効果

一方、本講座で学生に求める学習成果について、その測定・査定が全く十分でなかった点は大きな反省点である。これらのエビデンスに基づき、正課との連携とあわせて活動全体の再設計に繋げていくことが求められよう。

(5・2) ローカルからグローバル、未知なる可能性

本講座を終え、大学における地域貢献の一つが地域学の開催であり、そして地域社会において果たすべき役割の一端であることを強く感じた¹⁸⁾。大学は学術的役割を求められることが多々あるが、本講座のように地域外から通学している学生に対しても、大学が存在する地域文化資源を幅広く紹介する事も必要だと感じる。例えば、宗像と隣接している地域から通学している学生でさえ、宗像における歴史的な事柄に関しては全く無知であった。むしろ、海の道むなかた館に展示してある古い地図より自宅の住所を見つけて驚いている程である。

安川¹⁹⁾は、宗像歴史散歩の冒頭に「郷土を正しく知らずして郷土に誇りを持つことはできない」と記している。現在の日本は、国際・国際化・グローバル化の強化を推し進める傾向であるが、反対に地域・日本を知らなくなっていないだろうか。学問としての日本史だけではなく、地域について学ぶ事により自己のアイデンティティが確立できるのではないだろうか。確立されたアイデンティティは、他者・他地域・他国へと視野が広がると共に、それらを理解する気持ちが芽生えるのではないかと考える。

今回の講座は「宗像学」と称して開講した。「宗像学」は1回で終わることなく、「宗像」を基盤とした様々な学びの可能性が含まれている。それは歴史・文化だけに留まる必要は無く、スポーツや観光、動植物、農作物、魚産物と学びの領域は無限である。古来より人が暮らしていた事、交通の要所であった事などの歴史的観点、決して標高が高い訳では無いが四塚連山、玄界灘、そして複数の島を有するなどの地理的観点などを踏まえると、珍しい植物が宗像に生息している確率は非常に高い。既に個体数の少ない、珍しい植物が宗像でたくさん見られる事は報告されており、稀産な植物にも着目することができる²⁰⁾。また、近年では、長距離を移動するアサギマダラが宗像市に飛来していることが報告されている。このように、「宗像」が秘めている可能性を更に引き出す事が、勉学の一環としても未知なる可能性を引き出す事ができると考える²¹⁾。

今後は、上記した多くの可能性を秘めた「宗像学」を幅広く総合的視野を持って考え、企画・運営していきたい。直近である2016年度後期は、大島(中津宮)への訪問を軸にした「第2回宗像学」を企画中である。

6. おわりに

本特別講座を開講するに辺り、色々な考えが交錯していた。講座である限り、引率教員の専門性から地域を伝

えるべきなのか、或いは教養の一環として地域を伝えるべきなのかの二者択一である。そこで今回は、前述したとおり「宗像と世界遺産」の講義を踏まえて、宗像の知識を深めると共に、場所を訪問する事に主眼を置いた。

本講座の参加学生にどのような影響を与える事ができたかは定かではないが、短期大学生活を過ごしただけの地域では無い印象を与える事はできたと自負する。将来的に宗像で過ごした2年間、或いはそれ以上の年月に対して懐かしみを持ち、友人を、そして家族を連れて再び訪問してくれる事を強く期待する。

引用文献

- 1) 九州学シンポのご案内 別府大学
<http://www.beppu-u.ac.jp/event/mt-uploads/%E4%B9%9D%E5%B7%9E%E5%AD%A6%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85.pdf> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 2) 九州学日程 別府大学
<http://www.beppu-u.ac.jp/event/mt-uploads/%E4%B9%9D%E5%B7%9E%E5%AD%A6%E3%80%80%E6%97%A5%E7%A8%8B%E3%82%A8%E3%82%AF%E3%82%BB%E3%83%AB.pdf> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 3) 福岡県 HP>記者発表資料>糸島地域広域連携プロジェクト～テキスト「いとしま学」完成しました！
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/press-release/itoshimatiiki-kouikirenkei-itoshimagakutext.html> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 4) 大学教育推進プログラム 審査結果表(長崎女子短期大学—長崎食育学を活かした食文化伝承と情報発信—)
<https://www.jsps.go.jp/j-pue/data/kohyo/h22/tanki/B3034.pdf> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 5) 公益財団法人 山形県生涯学習文化財団 山形生涯学習センターHP >遊学館>地域学へのいざない>地域学ってなあに？
<http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/chiikigaku/> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 6) 安川浄生：「宗像の歴史散歩(改訂版)」, 曹洞宗安昌院布教所, p.29 (1984)
 - 7) 宗像大社>宗像三宮>三女神を祀る宗像大社
<http://www.munakata-taisha.or.jp/html/sanmiya.html> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 8) 宗像大社>神勅 <http://www.munakata-taisha.or.jp/html/shinchoku.html> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 9) 文部科学省 中央教育審議会 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (2012年8月28日閲覧確認)
 - 10) 宗像大社>宗像三宮>三女神を祀る宗像大社 前掲
 - 11) 宗像大社>辺津宮神域>高宮祭場
http://www.munakata-taisha.or.jp/html/hetsumiya_siniki.html#takamiya (2016.8.22 閲覧確認)
 - 12) 宗像大社>辺津宮神域>第二宮・第三宮
http://www.munakata-taisha.or.jp/html/hetsumiya_siniki.html#teiguuteisanguu (2016.8.22 閲覧確認)
 - 13) 海の道 むななかた館 <http://searoad.city.munakata.lg.jp/> (2016.8.22 閲覧確認)
 - 14) 宗像市>公共施設マップ>田熊石畑遺跡歴史公園「いせきんぐ宗像」
 - 15) いせきんぐ宗像 国史跡田熊石畑遺跡 リーフレット
 - 16) 文部科学省平成20年度質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)採択事業「地域活性型人材育成プログラム」最終報告書 pp.82-84
 - 17) 溝上(アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 第2章 第2節(3)アクティブラーニングに直結する技能・態度(能力) pp.49-54
 - 18) 山田千香子, 吉居秀樹:長崎県立大学における地域学「長崎県北の歴史と文化—平戸・西海学(1)」開講の経緯とその意義について, 長崎県立大学経済学部論集, 第43巻第4号 pp.177-208 (2010)
 - 19) 安川浄生:「宗像の歴史散歩(改訂版)」, 前掲
 - 20) 宗像市教育委員会編:「宗像の歴史と文化財」, 青柳工業株式会社印刷部, p.214 (1988)
- 21) 福岡県宗像市周辺のアサギマダラ:「宗像市アサギマダラの会」の前田秀敏さんからお聞きする
<http://www.peco28.com/butfly/asagi-munakata> (2016.8.22 閲覧確認)
- 注
- *1 福岡県宗像市と福津市に広がる「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が2015年7月世界文化遺産登録候補として推薦された。2009年に世界遺産暫定リスト入りをし、国内3ヶ所と競合した後、2016年1月に外務省よりユネスコ世界遺産センターへ推薦書が提出された。今後、イコモスの現地調査が夏から秋にかけて行われ、2017年5月には評価結果の勧告があり、世界遺産に登録の可否は2017年夏の第41回世界遺産委員会にて審議され決定する(文化庁サイト)。
- *2 いとしま学:テキスト「いとしま学」を活用し、「糸島の魅力を知り、郷土への誇りと愛情をもち、将来の糸島を支える地域の人材」を育てる学習である
<http://www.city.itoshima.lg.jp/uploaded/attachment/14445.pdf> (2016.9.28 閲覧確認)
- *3 宗像三神は、天照大神の吹き出す息吹の狭霧の中から誕生した。
- *4 日本書紀は八世紀に記されたものであり、天照大神との関連、沖ノ島で行われていた祭祀(四世紀後半から九世紀)、とは矛盾する事がある。これについては下記を参照して頂きたい
- 天照大神の命によって、宗像の三女神は、田島、大島、沖ノ島に鎮石したとお考えになる方がいるかと思いますが、事実は逆であります。つまり宗像三神がすでに北海道中に展開していることを前提とすることにより、天照大神の命令の意味が理解できるのではないのでしょうか。綿津見や住吉の三神のように、同じ境内に並んで鎮座しているところでは、宗像三女神に対するような言葉を天照大神は発することができません。つまり、宗像三女神が田島、大島、沖ノ島を拠点として、北海道中の確保をしている、という事実が先ずあります。『日本書紀』は、この事実を踏まえ、北海道中の確保を天照大神の命令であるとし、その保証を天皇に求めたのです。
- *5 田熊石畑遺跡は、弥生時代中期前半の区画墓からの銅剣出土(副葬品)が有名である。この銅剣副葬墓の発見が史跡指定の大きな根拠になっている。